ふうしゃだより

WINDMILL LETTER

2021. 9月号

皆様こんにちは。日本風力エネルギー（株）です。

虫の音が聞こえるようになり、秋らしさも深まってきました。今月の「ふうしゃだより」では、以下のコンテンツをお送りいたします。

注目CONTENTS

・鳥取大学 藤村尚名誉教授への盛土の工法と安全性に関するインタビュー
・「今月の風車ニュース」ヴィーナ・エナジーのCSR活動について　・ふうしゃだよりのWEB配信がスタート

弊社が計画しております「（仮称）鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは地域住民や専門家のご意見を頂きながら、進めてまいります。説明会や話し合いの機会を頂戴できますと幸甚です。

お問い合わせ
日本風力エネルギー株式会社 鳥取事業所（鳥取風力合同会社）
〒680-0404 鳥取県八頭郡八頭町見槻中154-2 隼LAB 2-A
TEL. 0858-76-0700 FAX. 0858-76-0701

VENA ENERGY

（仮称）鳥取風力発電事業　専用サイト：https://project.venaenergy.co.jp/tottori/

注目のエネルギーニュース

脱炭素社会へ向けて：新エネルギー基本計画の素案発表 再生可能エネルギーの比率は現状の18%から約4割まで引き上げる方針へ

経済産業省は7月21日、新たなエネルギー基本計画の素案を発表しました。

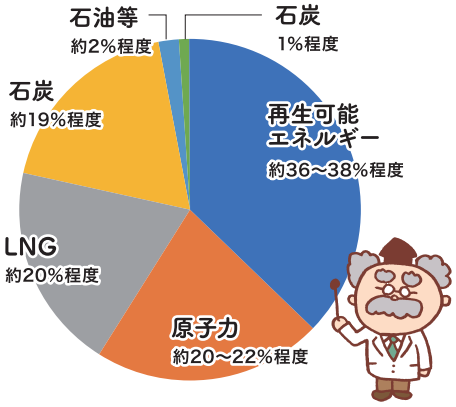
この素案では2050年を見据えたさらなるカーボンニュートラルへの道筋を示しており、2030年までに温室効果ガス割合を13年度比で46％削減するというアグレッシブな目標を設定しています。

さらに、温室効果ガス削減への方策として、再生可能エネルギー（以下再エネ）の割合を36～38％にまで引き上げて主力電源化する目標を掲げ、再エネ最優先の原則を明らかにしました。

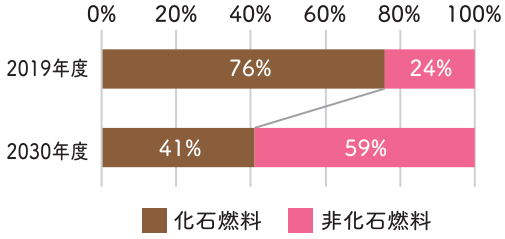
また、素案の中では景観の調和や災害発生時の有効活用といった、地域住民に対する安全・安心により配慮した「地域共生型発電所の推進」と、それに伴う再エネ促進地域の設定などが具体案としてあげられています。

新エネルギー基本計画の施行によって、よりスピーディに、より地域課題に即した形で、再エネサービスを提供できることが期待されます。

2030年度の電源構成の目標値



電源構成の変化



「ふうしゃだより」がWEBでも読めるようになりました

メニューのこちらからご覧いただけます

スマホやタブレットから、こちらのQRコードを読み込んでアクセスできます

ふうしゃだよりWEB版はこちら

https://project.venaenergy.co.jp/tottori/fuushadayori

今月の風車ニュース MONTHLY NEWS

ふうしゃから生まれる地方貢献
ヴィーナ・エナジーのCSR活動の一部をご紹介します

FROM 鹿児島
旧酒店をリノベーションし、新たな集いの場へ。地元で採れた野菜や花の販売も

鹿児島県いちき串木野市荒川地区の閉業した酒屋をリノベーションし、地域住民の集いの場として8月5日に再オープンしたのが「MINOTE＋（ミノテプラス）」。地元で作った野菜や花を販売すると同時に、併設するギャラリーでの催しも可能な施設です。オープニングイベントでは、地元の写真家による「荒川写真展」や地元小学校の和太鼓演奏の動画投影などを行い、好評を博しました。

5年前に閉業した箕手酒店をリノベーション（左図）。地場野菜の販売や催しを通じ、地元住民の方の新たなコミュニケーションの場、そして観光客誘致の場となっています。

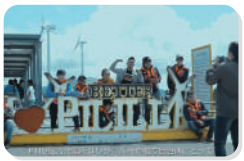
FROM フィリピン
風力発電所を観光地化することで地域を活性化

ピリラ風力発電所（フィリピン・リサール州ピリラ市）は、設備容量54メガワットの再生可能エネルギー供給に加え、ビジターセンターを併設することで同地域の大きな観光資源となっています。ピリラ風力発電所の模様は、YouTubeでもご覧いただけます。

フィリピンでは風力発電所が観光地になって地域が活性化してるらしいわよ

YOUTUBE スマホやタブレットから、こちらのQRコードを読み込んでアクセスできます。

https://www.youtube.com/watch?v=GAEN5RzHzTo



2019年は4月と12月をピークに、年間100万人以上が来訪。来訪者数が多い10州の中に、Pililla市がランクインすることに大きく貢献しました。

レンタサイクリングはビジターセンターの目玉アトラクションのひとつ。道路が整備されたことで、住民も車で移動しやすくなりました。

生計支援プログラムを経て、工芸品制作や土産物店経営を行い安定した収入を得られるようになった住民も多数います。

無料の生計支援プログラムによって、家族の生活の質が改善しました

ヴィーナ・エナジーは、地域の皆様と共に
地域経済の発展と持続可能な地域作りを目指します

話題のインタビュー

interview

Interview theme

盛土は古来からある災害防止策

安定性の決め手は締固めとのり面。その工法について

今回のインタビューは

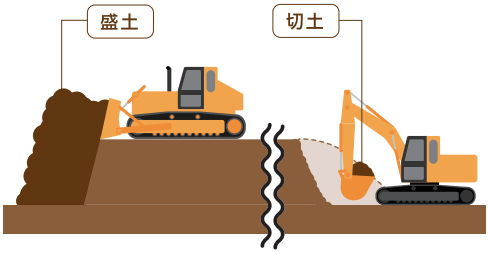
鳥取大学
名誉教授　藤村 尚 先生

地盤工学及び土木工学の専門家として、鳥取県防災顧問、鳥取県地震防災調査研究委員会委員等の数多くの委員を歴任。平成29年には防災功労者として防災担当大臣表彰を受賞。

POINT 01 治水にも役立つ盛土・切土

盛土・切土は地表を平坦にならすほか、周囲の治水という役割もあります。

盛土・切土工事は、ダム・堤防・鉄道・高速道路の建設や、宅地開発などで行なわれる造成手法のひとつです。盛土・切土の役割は、土地を平らにするだけではありません。盛土で築堤し洪水を防いだり、ため池を造成して稲作の用水に利用するためにも欠かせない、古墳時代から培われた工法のひとつなのです。



POINT 02 盛土に不可欠な“締固め”

盛土を安定させるために、土を盛っては固める作業を繰り返すのが“締固め”です。

盛土の強度を高めるには、土の密度を最大にすることが大切です。十分な密度に高めるには、「締め固め」が最も大事です。この作業は、「土を敷きならす」→「重いローラーや振動ローラーで圧力をかけて締め固める」という作業を繰り返すことです。建設現場で重機が前後に移動しているという風景が締固め工事で、盛土には欠かせない工程です。

POINT 03 土の強度を高める“水加減”

用途などに合わせ、盛土を適度な含水量にすることで強度が高められます。

盛土・切土の用途や土質（土の種類や粒の大きさ）などを見極めながら、盛土に最適な密度をもった土質になるように水分量や締固めエネルギーを配合・調整し施工管理しています。

POINT 04 盛土工事にはきめ細かい指針がある

締固めとのり面の塩梅が安定性の決め手。

盛土・切土でできた斜面のことを「のり面」と呼びます。この部分が崩壊すると土砂崩れにつながるため、締固めに加え、地形・地盤に併せた最適設計を行い、のり面の緑化などの補強対策を必ず行います。道路工事や宅地造成の盛土・切土工事では、設計・施工に関する詳細な指針が定められおり、それに基づいた細かな分析やシミュレーションが実施されます。

この指針に基づき、右図のような試験装置を用いて土の強さや性質を知るだけでなく、植生やコンクリートを活用してのり面を補強したり、排水装置を整備することで盛土・切土部分の安全性をさらに高める工夫も行なわれています。

締固めの強度測定

解析・シミュレーション内容の一例

- 土地の用途
- 周辺環境の状況
- 盛土自体の条件
- 周囲の排水状況
- 盛土の高さ
- 材　料
- 工事箇所の地盤状況
- のり面の傾斜
- 排水設備